

憲法を守り いかし

国民の声 政治を動かす年に



今年こそ平和な年に

2016年がスタートしました。「今年こそ、平和な年に」「今の日本は戦争へと向かっているようで怖い。いつまでも、『戦後』が続いてほしい」多くの方々の願いです。

憲法違反の「安保関連法」(=戦争法)の「強行採決」から3カ月半。国民の不安と怒りはおさまりません。安倍政権は、「新三本の矢」や「軽減税率」を打ち出し、戦争法成立への怒りを忘れさせようと必死です。でも、国民は、けっして忘れていません。

「2000万人署名」で戦争法廃止へ

「民主主義って何だ!」と青年が声をあげ、「誰の子どももころさせない」とママたちが声を上げた2015年。流行語大賞のトップテンに、「アベ政治を許さない」「SEALDs」が選ばれました。「国民の声を無視して『戦争する国』へと暴走するアベ政治をストップさせ、国民の声が届く政治に変えたい」その声広がっています。

一人ひとりの「戦争だけはイヤだ」の思いを「戦争法廃止を求める2000万署名」に集めましょう。そして、「2000万人署名」で、「野党は共闘してほしい」という国民の願いを示し、国民の声で政治を動かしましょう。

戦争でテロはなくせない

テロの脅威、恐怖が世界に広がっています。テロ対策は、けっして報復戦争であってはなりません。戦争でテロをなくすことはできません。新たな憎しみを生み、報復の連鎖を生み出すだけです。もし、日本が戦争法を根拠に対テロ軍事作戦に参戦すれば、日本がテロの標的にされてしまいます。危険な戦争法の発動は止めなければなりません。

憲法をいかした平和外交こそ

国連は、IS資金源を遮断するなど、国際協調によるテロ根絶の道を追求しています。また、各国の有識者からは「テロを根絶するためには、テロ組織に青年を向かわせる土壌となっている差別や貧困をなくすことこそが求められる」との発言もされています。

日本国憲法第9条は、対話による紛争解決の道を示しています。そして、憲法前文は、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」と高らかにうたっています。日本国憲法を守り、いかすことこそ、テロも戦争もない世界への道です。